

2023年5月17日  
すみだ北斎美術館

# 北斎 大いなる山岳 企画展

## 関連イベント・見どころのご案内

すみだ北斎美術館（東京・墨田区）は2023年6月20日（火）から8月27日（日）まで企画展「北斎 大いなる山岳」を開催いたします。浮世絵師・葛飾北斎（1760-1849）や門人が描いた山の作品を前期・後期あわせて約100点を展示し、北斎による多彩な山の表現とその魅力に迫る展覧会です。本展の新しい関連イベントが決定したほか、本展の展示構成や主な出品作品とともに見どころをご紹介します。

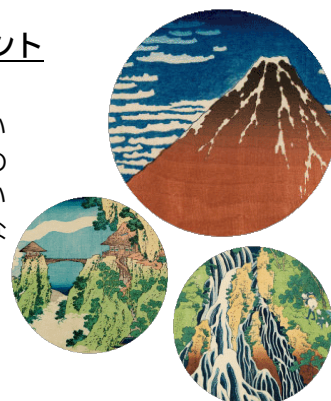
### 夏休みキッズ企画：浮世絵の職人入門 ※申込方法など詳細はホームページにてお知らせいたします。

- ・日時 8月5日（土）14:00～16:00
- ・会場 MARUGEN100（講座室）
- ・講師 アダチ伝統木版画技術保存財団
- ・対象 小中学生及び保護者 ※小学2年生以下は保護者の同伴必須。
- ・定員 30名（保護者の方含む）
- ・料金 無料（ただし、企画展観覧券か前売券、または年間パスポートが必要です）
- ・申込 事前申込制（6月20日12:00からすみだ北斎美術公式ホームページにて受付開始）

### 8月1日～8月11日限定！北斎が描いた山をしおりにしてプレゼント

毎年8月11日は「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」山の日です。山の日にあわせ、企画展「北斎 大いなる山岳」の出品作品から、北斎が山を描いた作品のしおりいずれか1枚を、2023年8月1日（火）から8月11日（金・祝）の期間、本企画展をご観覧の方に配布いたします。北斎が描き出す山の魅力をご覧いただくとともに、山の自然の豊かさや、山とわたしたちの関わりを考える一助となりますと幸いです。

- ・配布期間 2023年8月1日（火）～8月11日（金・祝）  
※8月7日（月）は休館日のため、配布はございません。
- ・対象 企画展観覧券か前売券、または年間パスポートをお持ちの方



※仕上がりイメージ

## 本展の見どころ

### ◎北斎と一緒に、日本列島の山を巡ろう！

富士山をはじめ、北斎や門人が描いた山は日本列島各地に広がっています。本展出品作品に描かれた主な山は、前期・後期をあわせて30に及びます。キャプションには作品解説のほか、山の説明や「登山好き学芸員の現地レポート」がある作品も。北斎作品と一緒に、日本各地の山々をめぐる旅をお楽しみください。

#### ▼本展でご紹介する主な山リスト

日本人と山	富士山（富士講）、立山（立山講）、大山（大山講）
江戸の低山	御殿山、愛宕山、上野山、待乳山、道灌山、飛鳥山
関東の山	行道山、男体山、榛名山、妙義山、筑波山、鋸山、吾妻山、箱根山
中部の山	八ヶ岳、身延山、七面山、愛鷹山、秋葉山、足羽山
近畿の山	嵐山、吉野山、高見山（高峰）、音羽山、天保山
四国・九州の山	象頭山、稻佐山

### ◎北斎が描き出す、果てなき山の魅力

北斎が山を描いた作品は、自然の風景にとどまらず、人々が山に登る様子に目を向けたものや、山のくらしや生業を描写したもの、山にまつわる伝説に着想を得たものなど様々です。これらの作品を通して、日本人と山との関わりを感じるとともに、北斎によって描き出される計り知れない山の魅力に迫ります。

※次ページにて展示構成と主な出品作品をご紹介します。



## プロローグ(登山口) 日本人と山

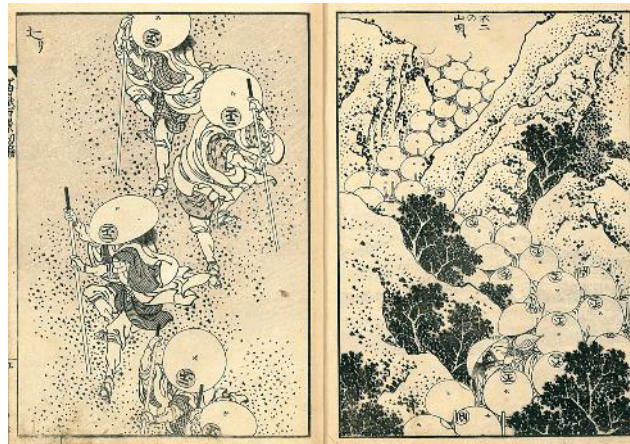
近代登山が始まる遙か以前から日本人は山に登ってきました。縄文時代にも好奇心による登山の事例が確認されていますが、娯楽やスポーツとしての登山は、主に近代に入ってからで、それより前は、富士講や大山講、立山講など、山をご神体として崇拝する山岳信仰のための宗教登山がほとんどでした。プロローグでは、北斎作品の背景にある日本人と山との精神的なつながりをたどっていきます。

### ▶ 富士講



葛飾北斎「富嶽三十六景 諸人登山」すみだ北斎美術館蔵（前期）

富士山を崇拝する山岳信仰・富士講（ふじこう）の信者が、富士山頂で御鉢廻りをする様子を描いています。御鉢廻りとは、火口を囲むように山頂を縁取る 8 峰を一周することです。ゴツゴツした岩肌に施された中央の陰影が、火口の深さを物語り、左上に何も描かず空のみとすることで高度感を表しています。山岳登山を描いた浮世絵としては、ダイナミズムと迫力において白眉の一枚といえるでしょう。

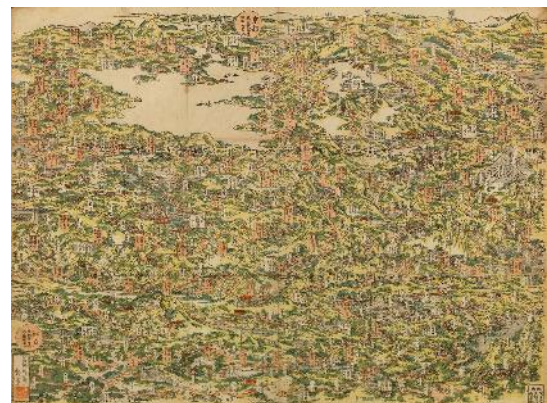


葛飾北斎『富嶽百景』初編 不二の山明キ 二り すみだ北斎美術館蔵（通期）

右は山開きに詰めかけた信者の様子、左は下山道の砂走りと呼ばれる細かい砂が積もった道を滑り降りて行く様子です。特に砂走りの人物たちは、ダイナミックでスピードを感じさせ、北斎による優れた人物描写が見どころです。

### ▶ 信仰と旅

本図は、木曾街道（中山道）のほか、甲州街道、日光街道など複数の街道とその周辺を、鳥瞰図法という鳥が上空から眺めたような視点で描いています。左下に起点の江戸、右中央に浅間山、江戸の上に木曾、中央上に終着点の京都と、蛇行するように配置されています。図中には多くの山々が描かれていますが、山名が明記されるものは、ほとんどが信仰の対象となる霊山です。江戸時代は、信仰と旅はセットで、著名な寺社・霊山へ向かう道も整備されました。



《当館初公開》葛飾北斎「木曾路名所一覽」すみだ北斎美術館蔵（前期）



# 1 合目 富士山から低山まで —北齋さまざまな山を描く—



日本の最高峰・富士山をはじめ、2014年までは日本一低い山として知られた天保山に至るまで、北齋一門はさまざまな山を描いています。それは、これまで浮世絵のジャンルの片隅にあった名所絵（風景画）を一躍主要なジャンルに押し上げた北齋ならではのといえます。

本章では、「富嶽三十六景」シリーズをはじめ、日本各地の山を描いた作品をエリアごとに紹介し、北齋一門が工夫をこらした多彩な山岳表現をご覧ください。

## ▶ 富士山

山梨県と静岡県の間にある日本の最高峰です。古くから信仰の対象となり、特に江戸時代は富士講が盛んになりました。開山時期は7月上旬から9月中旬までで、御鉢廻りやご来光を拝むことなどを目的に数万人の登山客が訪れています。



葛飾北齋「富嶽三十六景 凱風快晴」すみだ北齋美術館蔵（作品を替えて通期展示）

本図は赤く染まる富士の山体から「赤富士」の名で親しまれています。作品名「凱風快晴」の「凱風」とは南から吹いてくる夏のそよ風のことで、その風に吹かれ、縹雲がゆっくり流れる空の下、富士山の中腹が赤みを増していく様子が見事に捉えられ、朝日を浴びる富士山の神秘的な姿を描き出しています。

## ▶ 行道山

栃木県足利市にある行道山の山名は、中腹にある浄因寺（じょういんじ）の山号に因んでいます。浄因寺は断崖に囲まれ、かつては修験者の道場として知られていました。行道山から足利織姫神社へ向かう登山道は、現在、ハイキングコースとして親しまれています。



葛飾北齋「諸国名橋奇覧 足利行道山くものかけはし」すみだ北齋美術館蔵（後期）

### REPORT



行道山浄因寺は、和銅6年（713）行基上人の開創と伝えられる名刹です。境内にある天高橋は、巨岩の上に建つ茶室清心亭に行く橋で、画中には天空の断崖上に位置するかのように雲や霧に包まれ、高度感が強調されています。



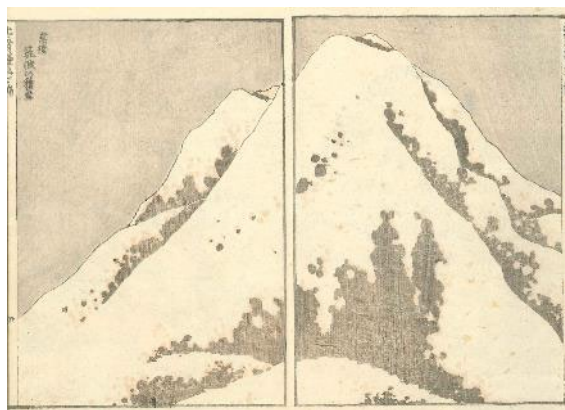
**登山好き学芸員の現地レポート**：実際は絵ほどの高度感はないですが、巨岩から突き出て建つ清心亭は不思議な建物です。

行道山は紅葉がオススメです！



## ▶ 筑波山

「西の富士、東の筑波」と、富士山と並び称される筑波山地の主峰で、男体山と女体山からなる猫の耳のような双耳峰が特徴です。中腹には筑波神社があり、多くの参拝客が訪れています。山頂へはケーブルカーやロープウェイでも行くことができ、最も低い『日本百名山』としても親しまれています。



葛飾北斎『北斎漫画』七編 常陸筑波の積雪 すみだ北斎美術館蔵（通期）

### REPORT



冠雪した筑波山が画面いっぱいに描かれ、シンプルですが、眼前に迫りくる迫力があります。特徴的な双耳峰も、手前から奥へと縦並びに確認できます。



**登山好き学芸員の現地レポート**：筑波山に登ってみるとガマ石はじめ奇岩怪石が点在しています。本図はそうした筑波山の印象を伝えているようで興味深いですね。



## ▶ 天保山

現在の大阪市港区に位置し、天保2年（1831）に、安治川の浚渫工事でさらった土砂を積み上げてできた人工の山です。当時の標高は10間（約18m）もありました。2014年に、東日本大震災によって3mになった日和山（ひよりやま、宮城県仙台市）に日本一の座を譲りましたが、二等三角点（日本の位置の基準を表す国家基準点）がある山としては日本一低い地位を保っています。



葛飾北斎「諸国名橋奇覧 摂州阿治川口天保山」すみだ北斎美術館蔵（作品を替えて通期展示）

### REPORT



写真：photoAC

「諸国名橋奇覧」は全国の有名な橋を描いたシリーズですが、本図は天保山の全貌を描くことに主眼を置かれているようです。満開の桜を見物に多くの人出で賑わう様子が描かれており、最新の観光スポットとして人気があったことがうかがえます。



**登山好き学芸員の現地レポート**：天保山公園の中にある少し小高い丘といった感じですが、大阪人の洒落っ気で、なんと山岳会・山岳救助隊が結成されているそうです！



## ▶ 吉野山、高見山、音羽山



《初公開》二代葛飾北斎「倣文晁山水図屏風」すみだ北斎美術館蔵（前期）

桜の咲き誇る奈良の吉野山、高峰（高見山）、音羽山を一望に捉えた屏風です。絵師は、印文「鱸弘貞印」より二代北斎を襲名した鈴木氏と考えられます。また落款「安政丙辰之上秋文晁先生図 北斎辰政写」から、関東南画の大成者で山水画に優れた名作を残す谷文晁(たにぶんちょう)の絵を写したことがわかります。元絵は文晁の名山真景図集『名山図譜』掲載の「高峰」で、葛飾派の絵師が流派を超えて文晁の影響を受けていたことをうかがわせる貴重な作品といえるでしょう。

## ▶ 稲佐山

長崎港を挟んで市街中心地の対岸に位置しています。山頂には展望台があり、晴れた日には雲仙・天草・五島列島まで眺めることができます。



魚屋北溪「諸国名所 肥前稲佐山」すみだ北斎美術館蔵（後期）

REPORT



北斎門人の魚屋北溪（ととやほっけい）による本図は、江戸時代にオランダや中国の貿易港として栄えた長崎港を描いています。左に描かれているのはオランダ船で、背景の手前側の山が稲佐山と考えられます。



登山好き学芸員の現地レポート：写真はグラバー園から稲佐山を撮影したものです。長崎市街のあらゆる場所から望むことのできる稲佐山は、まさに長崎のランドマークといえる山ですね。



2合目 山のくらし



北斎は山の姿だけではなく、木こり、猟師、金山の採掘など山中で働き暮らす人々や、山麓での営みも活写しています。高い木の上での伐採や断崖絶壁での岩茸採りなど、山ならではの危険と隣り合わせの仕事は、北斎の創造力、創作意欲を刺激したことでしょう。本章では、北斎とその一門による山のくらしを描いた作品の数々を展覧し、風景だけではなく人々にも注がれた北斎のまなざしを辿ります。

## ▶ 岩茸取 (いわたけとり)



葛飾北斎『北斎漫画』十三編 岩茸取 すみだ北斎美術館蔵 (通期)

岩茸は、山菜や漢方として珍重される地衣類（ちいらい）で、人が容易に近づけないような険しい岩場に生えることが多い品種です。北斎は、ロッククライミングのように岩場に登る女性や、吊り下げられた籠に乗って、岩茸を採取する女性を描いています。山中ならではのアクロバティックな作業風景です。



## 3 合目 山と伝説 —山怪—



山は神聖な場であり、異界あるいは異界への入口であるため、不思議な存在がいると信じられてきました。それゆえに、山男や山姥、天狗、鬼をはじめとした山の怪奇な存在、さまざまな山にまつわる伝説や怪談が伝えられています。本章では、北斎と一門の作品を通して、山の怪や山に伝わる伝説、またそれらをモチーフとした物語を紹介します。

## ▶ 天狗・狒々 (ひひ)・山姥 (やまうば)



葛飾北斎『北斎漫画』三編 天狗 狒々 幽霊 山姥 すみだ北斎美術館蔵 (通期)

右頁から左頁にかけて、深山に住む伝説上の生物「天狗」（本図は鳥のような嘴を持っているので、鳥天狗）、猿が大型化したような妖怪「狒々（ひひ）」、「幽霊」、山奥に住む女性の妖怪「山姥（やまうば）」が描かれている。幽霊を除き山に関係したものが多く、山深い場所に豊かな妖怪世界が広がっていたと信じられていました。

# 企画展「北斎 大なる山岳」 展覧会広報用画像請求紙

画像のお申し込みにあたり以下の注意事項を必ずご一読いただき、全て遵守をお願いいたします。

◀ 画像貸出に関して注意事項 ▶

- ・画像を使用の際は、クレジット全文（作家名・作品名・所蔵先・展示期間）の表記が必須となります。
- ・画像は記事などで本展をご紹介いただける場合に限りご利用いただけます。  
本展の広報に関わらない出版物や映像への使用・転載、商業利用はできません。
- ・画像の複製・貸与・頒布・配布・販売などはお断りいたします。
- ・画像は全図でご掲載ください（部分図のみの使用は不可となります）。
- ・ご使用後は、画像データの破棄をお願いいたします。
- ・展示作品は都合により変更することがあります。

ご希望の画像名にチェックをお願いいたします。

「北斎 大なる山岳」展 チラシ

北斎が描いた山のしおり（仕上がりイメージ）

葛飾北斎「富嶽三十六景 諸人登山」すみだ北斎美術館蔵（前期）

葛飾北斎『富嶽百景』初編 不二の山明き 送り すみだ北斎美術館蔵（通期）

葛飾北斎「木曾路 名所一覽」すみだ北斎美術館蔵（前期）

葛飾北斎「富嶽三十六景 凱風快晴」すみだ北斎美術館蔵（作品を替えて通期展示）

葛飾北斎「諸国名橋奇覽 足利行道山 くものかけはし」すみだ北斎美術館蔵（後期）

葛飾北斎『北斎漫画』七編 常陸 筑波 の積雪 すみだ北斎美術館蔵（通期）

葛飾北斎「諸国名橋奇覽 摂州 阿治 川口 天保山」すみだ北斎美術館蔵（作品を替えて通期展示）

二代葛飾北斎「倣 文晁 山水図 屏風」すみだ北斎美術館蔵（前期）

魚屋北溪「諸国名所 肥前稻佐山」すみだ北斎美術館蔵（後期）

葛飾北斎『北斎漫画』十三編 岩茸取 すみだ北斎美術館蔵（通期）

葛飾北斎『北斎漫画』三編 天狗 狒々 幽霊 山姥 すみだ北斎美術館蔵（通期）

貴社名
貴媒体名
部署名   (役職名   )
ご芳名
ご連絡先 TEL   FAX   E-mail
ご掲載・放送予定 月 日
備考   ※ご要望などございましたらご記入下さい。



報道関係の  
お問い合わせ

すみだ北斎美術館 広報・プロモーショングループ  
野田 / 中原 / 林 / アシスタント高橋  
TEL 03-6658-8991 / FAX 03-6658-8992  
Email hm-pr@hokusai-museum.jp

